

ごあいさつ

埼玉県では、「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050」を策定し、二酸化炭素排出量の削減目標を定め、温暖化対策を進めています。

地球温暖化は、私たちの日常生活や企業活動そのものが原因となっています。特に家庭から排出される二酸化炭素量は増加しており、日々の暮らし方を低炭素型に変えていく必要があります。

そこで、環境に配慮した住まいづくりを進めるため、県では埼玉県環境建築住宅賞(住宅部門)を創設し、今年度で第2回目を迎えました。

御応募いただいた作品は、光と風、木材や珪藻土などの自然素材をうまく利用したり、先端の省エネルギー機器を活用するなど、いずれも工夫とアイデアに富んだ素晴らしい住まいばかりです。

私は、県民の皆様にごこうした環境に配慮した住宅をじっくりと御覧いただき、環境にやさしい住まいづくりのきっかけにさせていただきたいと考えています。そして、小さなきっかけから始めた環境配慮への取組が、やがて大きなムーブメントとなり、地球温暖化防止につながることを期待しています。

これからも、県民の皆様とともに環境に配慮した住まいづくりを進めてまいります。

皆様の一層の御支援と御協力をお願いいたします。



埼玉県知事

上田 清司



審査委員長総評

第2回埼玉県環境建築住宅賞には全部で43作品の応募があった。今年度は、リフォームの応募も歓迎するとの趣旨での開催であったのだが、残念ながら、こちらの応募数は非常に少なく、総数でも昨年度を下回る結果となった。応募作品の質は昨年と変わらなかったとの印象であるが、盛況感という点では少し残念であった。来年度は、総数の回復を期待したい。

審査は、昨年同様、各審査委員が、1次審査で10点、2次審査で5点を選び、最終的に、最優秀作1点と優秀作4点、それに特別賞1作品を決定した。特別賞は、リフォームの応募作品から「住み継がれていく思い出のある家」を審査委員会として選ぶことにした。建替えではなくリフォームを選択した理由が、大変清々しく、その趣旨がセルフビルドを含む丁寧な改修に現れている点が評価されての受賞である。

環境問題に対する姿勢についても昨年同様、供給側（設計者或いは建設会社）の積極的な取組を啓蒙意欲と捉える視点と、需要側（施主或いは使用者）の積極的な取組を参加意欲と捉える視点の両方から行った。各作品の評価は、別途コメントを御覧頂くこととして、ここでは、上位2作品についてその受賞経緯に触れておきたい。

最優秀賞は、芝生を敷き詰めた片流れ屋根が、屋内空間と実に魅力的な連続性を持っている点と、その連続性故に、屋根が家族の憩いの場として受入れられている点が高く評価された。また、優秀賞の「小手指の家」は、最後迄、最優秀賞と競った作品で、供給側の、石膏板依存体質からの脱却をも意図した工法上の開発意欲は、実に見事なもので、高く評価したい。惜しむらくは、その果敢な提案を需要者にどの様に説明するかという戦略がほしかった。

第2回埼玉県環境建築住宅賞（住宅部門）の流れ

審査委員会●平成22年 5月 25日（募集要項の決定）

募 集●平成22年 8月 2日～9月24日
〈応募作品：43作品（新築41点、リフォーム2点）〉

一般投票●平成22年 10月 22日

審査委員会●平成22年 11月 4日（作品審査）

表彰式●平成23年 2月 10日

目次

ごあいさつ	1p
審査委員長総評	2p
第2回埼玉県環境建築住宅賞（住宅部門）の流れ	2p
最優秀賞「志木の家 Pendii」	3~4p
優秀賞「小手指の家」	5p
優秀賞「美しい自然素材の家」	6p
優秀賞「風を聴き、土を耕す。～風土に生きる木の住まい～」	7p
優秀賞「飯能の家」	8p
特別賞「住み継がれていく思い出のある家」	9p
作品一覧	10~14p
第2回埼玉県環境建築住宅賞（住宅部門）の概要	14p
2009年度（第1回）受賞作品	裏表紙

第2回埼玉県環境建築住宅賞（住宅部門）審査委員会

委員長 内田 祥士